

足立区立桜花小学校
学校長 岡戸 良雄 様

足立区立桜花小学校 開かれた学校づくり協議会

平成28年度 学校関係者評価書

1. 自己評価書全般について

【総括】○桜花基礎学習教室が何を目的に実施し、どのように取り組みを進めているか学校と協議会で共通理解が必要。桜花基礎学習教室のあり方や学習方法については指導をお願いする方と検討が必要である。

○来校者に対するあいさつは教職員、児童とも「進んで」行っているとは感じられなかった。挨拶応援隊の取り組みを通しても、登下校中に「進んで」あいさつできる子どもは多くはない。こちらから働きかけてできる児童がいる程度である。

○子供たちだけではなく、保護者も挨拶力が弱い。PTAを通じて保護者への啓発がもっと必要である。

○放課後子ども教室「桜ぱれっと」での児童の言葉づかいが気になる。乱暴・傷つける言葉づかいをさせないことが必要。スタッフ間の情報共有や教員の協力で子供たちを取り巻く言語環境をよりよく整えていく必要がある。

○小中連携、幼保小連携については、授業以外でも連携（クリーン作戦、交流研修等）を継続・充実してほしい。

○協議会としては、これからも子供の特性を活かす教育を推進するために、学校側からもっと相談や情報提供を行ってほしい。「桜花小の子どものために」ならば協力できる。

2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

【体力の向上について】

・挨拶応援隊の方が朝、登校しぶりの児童の自宅に登校支援に行っている。登校できない、欠席の多い児童への働きかけで地域の協力を得て取り組みを行っている。今後も学校でできること、できないことを整理して協力を依頼してほしい。

【欠席者数について】

・土曜日授業での欠席者数が多いのは病気や体調不良だけではないだろう。朝、学校へ送り出すために家庭の協力、努力は欠かせない。働きかけが必要。

【家庭学習習慣について】

・家庭学習の習慣は大切。宿題を「桜ぱれっと」の場においてやっていく子の中にはドリルの答えをそのまま写している子もいる。宿題の出し方や内容を工夫していくことが必要ではないか。

【保護者への啓発について】

・「PTA 活動」や「桜花基礎学習教室」や「桜ぱれっと」など、目的や内容を保護者に理解してもらえようとする必要があるのではないかと。まず、学校とPTAとで連携して共通理解しておかないといけない。

- ・PTA 役員会で情報を共有することが大事なので、管理職と PTA との情報共有の方法を確認していくとよい。学校行事等の変更点など事前に情報共有し、早めに PTA 運営委員会で全体にはかれるようにする必要がある。

3. その他

○桜花基礎学習教室は前年度の課題であった「参加児童の出席数低下」と「ボランティアによる国語指導の困難さ」を解消するために、今年度は「ものづくり教室の開始」、「希望する全 2～6 年を対象」、「国語⇒算数と国語」「自習可能な内容に変更」をした。対象児童については、前年度と同じく「基礎学力の定着が必要と学校を選んだ児童」に個別指導をするのがよいか、「希望する児童」に広く学習させるのがよいか、検討する必要がある。指導者の協力体制の組み方、教材、指導方法についても次年度の運営をどのようにしていくのか検討する必要がある。

⇒今年度の桜花基礎学習教室は毎回 50 名の児童が参加することができた。次年度は参加児童の学力定着につながるような内容にしていく。基礎・基本的な学習内容の補充指導が必要な児童（区学力調査で目標値に未到達の児童）については、教員が毎週放課後補習で指導していく。桜花基礎学習教室での指導はボランティアの指導者をお願いするので、次年度は算数の計算（足し算、引き算、掛け算、割り算など）の指導と丸付けを中心の内容とする。

1 時間目（30 分）作文、計算

2 時間目（30 分）計算（作文）

3 時間目（45 分）ものづくり教室

まず、区の学力調査問題に準じた作文を全員に書かせ、終わった児童から計算（足し算、引き算、掛け算、割り算など）プリントを行う。指導ボランティアの方が算数の指導・丸付けをしている間に副校長が作文を添削・指導する。

対象は補充指導が必要な児童のみでなく、「基礎的な計算を定着させたい」、「復習で自信をつけたい」という **2～4 年生児童を対象**にしたい。ものづくり教室は、友だちや異学年の児童、地域の方などと触れ合う機会を意図的に設けることで児童の豊かな心やコミュニケーション能力の育成につなげたい。児童が桜花基礎学習教室に参加しやすくなる効果もある。

○挨拶応援隊の新規隊員を増やすために学校からも呼びかけていく必要がある。

⇒学校だよりで挨拶応援隊の活動を紹介して、隊員を募る。年度始めに児童にメンバーと活動を紹介する。夏休み前に児童とふれあい給食を実施する。

○学校、保護者、開かれた学校づくり協議会で連携して地域安全マップづくりを作成し、児童の安全を守る。

⇒避難訓練（引き取り訓練）の帰りに保護者と児童で通学路の安全確認を行い、危険箇所を把握する（学校）。開かれた学校づくり協議会、PTA で協力して把握した情報を地図に示し、家庭に配布、啓発する。